

島のむんがたり

徳之島の妖怪たち

徳之島でよく知られた妖怪に「ケンムン」がいます。ガジユマルやアコウの木を住処にし、「木の精」とも言われます。最近は見かけたという話を聞きませんが、江戸時代に記録された「南島雑話」(名越左源太著)に奄美大島住用の例が描かれていて、昔から奄美から沖繩にかけて目撃例があります。沖繩ではキジ

ムナーと言います。その姿かたちは赤毛の毛むくじゃらで、手足が細長く、体座りすると膝のほうで頭より高く、子供のような大きさと言われています。山だけではなく海にも出没しますが、タコが大嫌いです。人に出会おうと相撲を挑んできません。漁師が海に連れて行くと豊漁になり、魚の目玉をあげると喜ぶ

ムンに化かされたのだと気が付くわけです。場所も決まっています。最近知った話ですが、ケンムンには違う種類もいるみたいです。青白く光っている、色も青っぽく手先が一本の長い爪になっていて木に群れていた、見た目もボサツとした長い毛におおわれていたというものです。

後、仕事がよく舞い込むので不思議だなと思っていたのですが、それが「ザシキワラシ」であるなら合点がいくと、大変驚いたとのこと。ザシキワラシは東北地方に伝承される妖怪ですが、徳之島にもいる可能性があるわけ。また、犬田布岳に棲むという「イツサ」もいます。豊漁を招く妖怪です。トウモロコシのような尻尾を持つそうです。

これはの伝承や証言は、あなたが作り話とは思えないものもあります。私たちは普段、眼に見えるものだけしか信じません。でもケンムンなどは実際に人と触れ合えるようです。もしかすると、この世の中には目に見えない生き物もいるのかもしれないね。

（町誌編さん室 米田博久）



『新先生一代記』より「芝天」(ウイキペディアより)

も好きです。森の中でいきなり背中に乗られた人もいます。道に迷わされ、気がついたら泥だらけになっていたり、御地走を食べたつもりだったのに周囲にはカタツムリの貝殻がたくさん落ちていた、ということもあります。また、行方不明になった人がひよっこり現れたという話もあって、本人はそんなに長い間留守をした覚えはなく、村の人が騒ぐのでケン

1年ほど前聞いたのですが(註)、泉重千代さん宅を見学に訪れた家族が子供が家の中から出ていくのを見たそうです。数日後、ある人が自分のおなかの上で子供が飛び跳ねたという話をしたので、泉重千代宅での出来事を話したら、その時すぐ近くで仕事をしていたとのこと。そ

(註) 話者の重久勇さんは、去る11月に逝去されました。徳之島町史自然編・民俗編で多大なご協力を頂きました。慎んでご冥福をお祈りいたします。

問 郷土資料館
☎0997-82-2908